

## 尾ノ上の風

第23号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

## 卒業式 6年生巣立つ

これまでの教育の歴史を振り返っても前例のない感染症防止による休校を受けて、卒業式は大幅に実施方法を変更して行いました。当日は在校生や来賓の出席はなく、卒業生と同居する保護者、教職員のみでの出席で実施しました。9日の臨時登校日から久しぶりの登校になった19日は暖かい朝でした。登校時刻よりも早く正門に来て写真を撮られるご家庭もあり、式の30分前にはかなりの保護者の方が来校されました。

式では、国歌斉唱の後、卒業生130人全員に卒業証書を授与しました。練習は9日に各クラスごとに40分しかしていなかったのですが、子どもたちはしっかりと私の目を見て証書を受け取りました。私が一言ずつ言葉掛けをすると、子どもたちは、「はい」「ありがとうございます」と返事をしたり、頷いたりその子どもらしい反応を返してくれました。学校長式辞もしっかりと私に目を向けて真剣に聞いている様子に胸がじんときまりました。その後、尾ノ上小校歌を出席者全員で歌って式は終わりました。式後は、子どもたちと担任のみ教室に上がって最後の学級活動を行うことができました。

こうして130人の卒業生は尾ノ上小を巣立っていきました。



こんにちは！お仕事&授業拝見38 5年2組 道徳 姫路恭輔先生編



日ごろ、姫路先生の授業の参観を参観すると子どもたちの興味・関心を高めるような工夫をしている場面を多く見ました。子どもたちが楽しく学習するというのを大事にしておられることが伝わってきました。だからでしょう、5年2組の子どもたちの顔があがって先生に注目していることが多かったと思います。今回は、人権学習に焦点をあてた道徳の授業を参観しました。今回の授業でも次のような工夫やよさがありました。



①子どもたちの日常生活に注目をあて、男女を知らないうちに意識していることを話題にしたこと②アンケートなど子どもたちの姿に密着した授業を計画したこと③教師の表情、言葉かけ、雰囲気大きな安心感を与えていること ということです。

今回取り扱った教材は、男子、女子といった意識で行動したり、考えたりするのではなく、男女関係なく良好な関係を築くために相互に理解していくことをねらいとしたものでした。道徳の授業では、教材文の読み取りで終わってしまっただけで、自分事として考えたり振り返ったりしなければ学習する意味がなくなってしまいます。姫路先生も日ごろから子どもたち同士で対話させることを意識して授業を進めておられます。

今回も子どもたちに自分の考えをしっかりとつように働きかけをされていました。残念ながら予定した学習内容まで時間が足りませんでした。子どもたちはタブレットを使いこなす姿を見せながら、安心して授業に取り組んだ1時間でした。

電子黒板で子どもの発表を確認（上）とペアで対話する子どもたち（下）



姫路 恭輔（ひめじ きょうすけ）先生 尾ノ上小3年目

【姫路先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

教師になる前は楽器を販売する仕事をしていて、学校を回っていました。自分が学生のかきの吹奏楽部の先輩の中で先生になっている人がたくさんいて、先輩たちが吹奏楽部を指導している様子を見てすてきだなと思ったことがきっかけで先生になろうと思いました。

## こんにちは！お仕事&授業拝見39 5年1組 外国語 宮崎寛子先生

宮崎先生の研究授業を全職員で参観しました。いいなあと感じたことをあげると  
①先生自身が授業開始と同時にハツラツとした表情に切り替え、表情が笑顔  
②授業に心地よいテンポがあること ③動と静の切り替えが明確で、動では非常に活動的であること ④タブレットの活用にチャレンジし、子どもたちの意欲向上に効果をあげていること などがさすがだと思える授業でした。

これまでの英語での積み上げによって子どもたちは積極的に英語を話そうとする姿が至る所で見られました。例えば、子どもたち同士で会話する活動で、相手が見つからないと、参観している先生に自分から英語で話しかけていた子が何人もいたのです。これは簡単なようではなかなかできることではないのです。普段から宮崎先生は、自分から手を挙げることを積極的に発言することを子どもたちに求め、辛抱強く待ちながら指導しているからです。また、英語にネガティブなイメージを持たないように、単語が分からない言葉を学級だけで通用する「5の1イングリッシュ」として子どもと作ることで、抵抗が緩和されるよう指導しておられました。例えば、話の中でフカヒレと言う言葉が出てきたときに「シャークフィン」と言い換える言葉を子どもたちと作っていました。授業は活動的な場面もあるかと思えば、じっくりと振り返りを考える場面もあり動と静のある授業でした。振り返りをきちんと取ることで、次の授業への意識を繋ぐことができます。職員にとっても大いに学ぶ所ばかりの授業でした。



タブレットを片手に会話を練習する様子(上)と先生に英語で話しかける子どもたち(下)



### 宮崎 寛子(みやざき ともこ)先生 尾ノ上小5年目

【宮崎先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

もともと学校が大好きだったことと小学校の時の担任の先生に憧れをもっていたことがこの道を志したきっかけです。そして、大学の時に教職という仕事は、人生をかけて取り組める仕事だと思い、この仕事を選びました。

## こんにちは！お仕事&授業拝見40

## 学校をささえる職員編



### 学級支援員 大久保真子(おおくぼ まこ)先生 尾ノ上小3年目

【この仕事をしていて楽しい、うれしいと感じるのはどんなことですか。】

全学年の子どもたちと笑顔で挨拶し、話を聞くのが楽しいですね。また、子どもたちが“困っている”“わからない”というサインに気づき、少しでも子どもたちの力になれたなと思える時が一番うれしいですね。



### 養護教諭 山口まな(やまぐちまな)先生 尾ノ上小3年目

【この仕事をしていて楽しい、うれしいと感じるのはどんなことですか。】

楽しかった運動会や音楽会、とても感動しました。また、尾ノ上小の皆さんが転んでも泣かなくなったり、けがの手当てを覚えて、友達にやさしくできたりするときに皆さんの成長を感じてうれしくなります。ありがとうございます。



### 図書司書補助 前村加紀子(まえむら かきこ)先生 尾ノ上小3年目

【この仕事をしていて楽しい、うれしいと感じるのはどんなことですか。】

人前で話すことが苦手なのですが、子どもたちが読み聞かせの時間を楽しみにしてくれていることを聞き、今では読み聞かせの時間が一番楽しくなりました。それと、図書室の貸し出しカウンターに行列ができるとうれしいですね。